

平成26年度大学地域連携事業報告

平成27年3月31日

1. 担当

主担当 滋賀県立大学
副担当 滋賀医科大学、長浜バイオ大学、大津市
参画 放送大学、びわこ学院大学、滋賀短期大学

2. 委員会活動

- 第1回（平成26年4月23日（水））
 - ・平成26年度事業の進め方について
- 第2回（平成26年6月2日（月））（書面）
 - ・大学地域連携課題解決支援事業の審査について
- 第3回（平成26年11月11日（火））
 - ・大学地域交流フェスタ（大学地域連携課題解決支援事業中間報告会）の開催内容について
 - ・本年度事業の進捗確認について
- 第4回（平成26年12月12日（金））
 - ・大学地域交流フェスタ（大学地域連携課題解決支援事業中間報告会）について
 - ・来年度事業計画について
- 第5回（平成27年2月23日（月））
 - ・本年度の事業まとめについて
 - ・来年度事業計画について

3. 大学地域連携課題解決支援事業について

【取組み一覧】

番号	提案区分	提案者	自治体担当者	大学担当者	取組テーマ	採択額	決算額
1	A	滋賀文教短期大学 国文学科 戸塚ゼミ	長浜市企画政策課 主査 福島麻奈美	滋賀文教短期大学 准教授 戸塚麻子	人口流出を防ぐための定住施策	150,000	150,000
2	A	立命館大学 金井ゼミ(国内調査実習・調査班)	甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課 課長補佐 長峰透 甲賀市観光協会 事務局長 横川正己	立命館大学 経済学部 教授 金井萬造	甲賀市の地域資源を活かしたまちづくり(水口～土山の文化遺産を活かす事業化)	150,000	150,000
3	A	聖泉大学人間学部 准教授、地域連携交流センター長 富川拓	彦根市教育委員会事務局 生涯学習課 課長補佐 植田勝彦	聖泉大学 地域連携交流センター事務局 係長 徳田裕美	彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画推進について	100,000	100,000
4	A	大津市	大津市企画調整課 主査 龍池和隆	龍谷大学社会学部 教授 脇田健一	理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～	150,000	146,020
5	A	東近江市	東近江市農林水産課 主査 高橋昌士	滋賀県立大学 助教 上田洋平	(農産加工品等)地域資源掘り起しと活用	150,000	124,960

6	A	玉川学区まちづくり協議会 会長 福井太加雄	草津市景観課 主任 田村昌也	立命館大学 経営学部 教授 佐藤典司	玉川っ子検定～わがまち玉川の魅力発見～	30,000	30,000
7	A	草津市	草津市文化財保護課 参事 藤居朗	立命館大学 理工学部 教授 及川清昭 講師 青柳憲昌	歴史まちづくり法に基づく草津市のまちづくり	120,000	120,000
8	A	環境推進員(えこリーダ-) (事務局) 彦根市生活環境課	彦根市生活環境課 主任 山本武	滋賀県立大学 環境科学部 助教 平山奈央子	環境推進員(えこリーダ-)への参加	50,000	50,000
9	B	滋賀大学教育学部 学生 中村久美子		滋賀大学教育学部 講師 大平雅子	学校と地域社会が協働した児童虐待対策ネットワーク構築に向けて	80,000	80,000
10	B	滋賀大学教育学部 岳野研究室		滋賀大学教育学部 准教授 岳野公人	滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発	100,000	100,000
11	B	成安造形大学 社会貢献部門 主査 加藤賢治		びわこ成蹊スポーツ 大学スポーツ開発・支 援センター 事務課長 松井茂孝	堅田歴史、観光 ウォーキングマップの作成	100,000	100,000
12	B	滋賀県立大学 佐々木研究室	米原市政策推進課 川瀬直亜	滋賀県立大学 人間文化学部 講師 佐々木一泰	米原市伊吹地域を中心とした、若者によるまちおこし事業の調査検証と記録	80,000	79,303
13	B	龍谷大学政策学部 「政策実践・探究演習」 教授 只友景士		龍谷大学政策学部 教務課長 栗田洋	守山プロジェクト:話し合いがまちを変える!守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム	70,000	32,400
14	B	長浜ハイオ大学 Entrance to Science 代表 山本翔大		長浜ハイオ大学 学生教育推進機構事 務室 学習・就業力支 援担当 課長 杜下好恵	科学(Science)を通じた地域交流	100,000	100,000
15	B	長浜ハイオ大学 CELL部 部長 安江俊輔		長浜ハイオ大学 学生担当 課長 九野里英理子	身近な科学のおもしろさを体験させる	70,000	69,461

1,500,000 1,432,144

※報告書参照

4. 「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2014」の開催について

「大学地域連携課題解決支援事業」&「学生支援事業」活動報告会

- (1) 日 時 平成 26 年 (2014 年) 12 月 20 日 (土) 13:00～16:45
- (2) 場 所 コラボしが 2 1 (大津市)
- (3) 参加者 県内の大学関係者、学生、地域および自治体関係者など約 130 名
- (4) プログラム

①開会挨拶 (堀池喜八郎・代表幹事 (滋賀医科大学副学長))

②活動報告会

A 会場「地域課題対応型」の活動報告会 8 題

B 会場「自主活動型」の活動報告会 7 題

C 会場 学生支援事業の活動報告会

③交流会

【活動奨励賞・受賞者】 7 団体

団体名	取組テーマ・名称
東近江市農林水産課 滋賀県立大学	「(農産加工品等) 地域資源掘り起しと活用」

大津市企画調整課 龍谷大学社会学部、龍谷エクステンションセンター	「理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～」
玉川学区まちづくり協議会 草津市景観課、立命館大学経営学部	「玉川っ子検定～わがまち玉川の魅力発見～」
彦根市生活環境課 滋賀県立大学 環境科学部	「環境推進員(えこリーダー) への参加」
滋賀大学教育学部岳野研究室	「滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発」
大津北商工会 成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学	「堅田・真野健康観光 ウォーキングマップ制作プロジェクト」
長浜バイオ大学 Entrance to Science	「科学(Science) を通した地域交流」

④閉会

※報告書参照

5. 大学地域連携研究会について

会員自治体による県内の多様な大学とのさらなる交流を促進し、各大学の知的資源、シーズ等の理解につなげるため、大学地域連携研究会を開催した。

○第1回 平成27年2月23日(月) 成安造形大学

6. 大学地域連携ネットワーク事業について

平成26年度文化芸術振興費補助金事業「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」の一環として、滋賀県博物館地域連携人材育成委員会（滋賀県博物館協議会・一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム共催）により、以下の事業を実施した。

(1) 「滋賀県の博物館・美術館いちおし展示」と「滋賀ミュージアムポケットナビ2014」の各大学への配布

県内博物館・美術館42館で所蔵するいちおしの資料・標本、常設展示、あるいは今期のおすすめ展示会等を、平成26年10月4日(土)～11月30日(日)に紹介し、地域の歴史・文化・自然を学習してもらう機会を提供した。また、県内の大学に在籍する大学生約38,000人を対象に、地域の歴史や文化、自然について学ぶことができる、滋賀県内の博物館・美術館（滋賀県博物館協議会加盟館）70館を10のカテゴリー別に紹介した冊子「滋賀ミュージアムポケットナビ2014」(A6版)を配布した。

(2) 『滋賀県の博物館・美術館 地域を学ぶ博物館ツアー』の実施

県内の大学に通う大学生に、地域の歴史・文化・自然を学んでもらう機会として、大学生自らが企画した二つのツアーを実施した。訪問先の各館では、学芸員による展示解説、バックヤード見学、ワークショップなどを行った。

ツアー1 「日本と世界を知る湖南・甲賀地域の旅」

日時：2014年 11月 15日 (土) 9:00 ~ 16:30

内容：西洋と東洋の美を追求した美術館や戦国時代を支えた忍者の郷がある甲賀と、紅葉が美しい湖南地域を巡った。(参加者 12名)

MIHO MUSEUM、甲賀流忍術屋敷、善水寺

ツアー2「水辺の歴史と暮らしを感じる湖東・湖南の旅」

日時：2014年12月7日 (日) 8:30 ~ 16:30

内容：琵琶湖岸の城・安土城で近江の歴史を体感し、八幡堀や瓦を通して当時の暮らしに思いをよせ、銅鐸のまち、野洲では古代の首飾り「まがたま」作りに挑戦した。(参加者 8名)

滋賀県立安土城考古博物館、特別史跡安土城跡、八幡堀、
かわらミュージアム、野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)

平成26年度学生支援事業報告

平成27年3月31日

1. 担当

主担当 立命館大学
副担当 滋賀大学、成安造形大学
参画 びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀文教短期大学、放送大学

2. 平成26年度学生支援事業（継続事業）計画について

学生支援事業計画は、学生支援事業委員会で審議し、担当者会議で実施計画を立案する。

- ① 基本的に過去4年間の事業を踏襲することとし、次の3項目を目的とした1泊2日の宿泊研修等を中心とした事業を計画する。
 - ア、地域の人々と交流を通して地域を理解する。
 - イ、ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。
 - ウ、学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。
- ② 滋賀の魅力再発見（歴史や自然以外の魅力を含む）や学生主導による学生交流企画の提案（外国人留学生との交流を含む）を行う。
- ③ 平成25年度実施した「滋賀・びわ湖ブランド展」のコンセプトを踏襲し、琵琶湖だけではない滋賀の奥深い魅力を発信することにより、滋賀の地域ブランド確立、向上に貢献する取り組みを学生主体で行う。**新規企画**
- ④ 大学地域連携事業と連携し、大学地域交流フェスタ等において学生支援事業の成果報告を行う。

3. 事業概要

2014年度は、基本的に過去4年間の事業を踏襲しつつ、2013年度に協力した「滋賀・びわ湖ブランド展」のコンセプトを踏襲し、滋賀の地域ブランド確立、向上に貢献する取り組みを学生主体で行う新規企画の立ち上げを行った。

年度	開催内容
2010 (H22)	<ul style="list-style-type: none">●1泊2日研修<ul style="list-style-type: none">・竹生島、沖島、琵琶湖博物館の3グループで実施。・スローガン「環（輪）～手を繋ごう1万人のびわ湖大使～」・参加者 66名（12大学の学生48名、教職員18名）
2011 (H23)	<ul style="list-style-type: none">●1泊2日研修<ul style="list-style-type: none">・沖島、信楽、農業活動、マリンスポーツ活動の4グループで実施。・スローガン アクティブ滋賀 そや！琵琶湖へ行こう！・参加者 70名（12大学の学生55名、教職員15名）●東日本大震災復興支援学生ボランティア派遣事業<ul style="list-style-type: none">・岩手県でのボランティア活動に参加・参加者 33名（5大学の学生）

	<ul style="list-style-type: none"> ●甲賀市観光サポーター <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 5名 (3大学の留学生)
2012 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> ●1泊2日研修 <ul style="list-style-type: none"> ・1日目は沖島で清掃ボランティア、地引網体験、植樹、島の歴史学習等 2日目は近江八幡で水蒸焼体験 (台風接近のため変更) ・スローガン「絆-琵琶環人 (びわんちゅ) がつなぐま〜るい環」 ・参加者 86名 (13大学の学生70名、教職員16名) ●地域連携フェスタで成果発表
2013 (H25)	<ul style="list-style-type: none"> ●沖島夏祭り (8/15) 参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ出演、体験ブース実施、屋台販売ボランティア ・参加者 22名 (4大学の学生) ●1泊2日研修 <ul style="list-style-type: none"> ・1日目は沖島で清掃ボランティア、地引網体験、植樹、島の歴史学習等 2日目は長浜黒壁スクウェアチームとブルーメの丘・安土城跡チームに分かれて体験学習を実施。 ・スローガン「ビバ! BIWA! びわこ! ~琵琶☆交流」 ・参加者 74名 (12大学の学生61名、教職員13名) ●地域連携フェスタで成果発表 ●滋賀・びわ湖ブランド展出演
2014 (H26)	<ul style="list-style-type: none"> ●沖島活性化プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ①沖島夏祭り (8/15) 参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ出演、体験ブース実施、屋台販売ボランティア、島民との交流 ・参加者 38名 (11大学) ②1泊2日研修 <ul style="list-style-type: none"> 1日目は沖島で三日月知事と学生、島民による懇談会、清掃ボランティア、地引網体験、運動会事前準備、島の歴史学習等を実施。 2日目は沖島運動会に参加 ・参加者 55名 (13大学の学生40名、教職員15名) ③地域連携フェスタへの参加、報告 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 30名 ●滋賀県ブランド力向上プロジェクト (新規企画) <ul style="list-style-type: none"> ①プロジェクト概要 <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県PR冊子の企画・編集・発行およびWeb公開 ・参加者 20名 (8大学の学生) ②地域連携フェスタへの参加、報告 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 6名 ●滋賀・びわ湖ブランド展出演 ●イナズマロックフェス「おいで〜な滋賀体感フェア」調査協力

4. 学生支援事業全体総括

(1) 到達点

①学生支援事業の組織体制について

本事業は13大学の学生が5名前後、それを支援する教職員が各大学から原則1名で構成している。事業の主役は学生であり、参加学生が大学の垣根を越えて協力し合いながら、主体的に活動を行っており、教職員は主担当大学、副担当大学が中心となって必要に応じた支援を行っている。会議は原則コンソーシアム事務局内の会議室で、月に1回程度活動の進捗確認と次回までにやるべき内容の意見交換を中心として開催されている。

これまで、13大学の学生が一同に集まることの負担が大きく、会議の参加人数が集まりにくい現状や特定の大学への負担が大きくなる傾向があったが、2014年度は沖島活性化プロジェクトにおいて、大学の所在地に応じてチームを3つに分けることで、一人ひとりが参加しやすい環境を作り、活動を活性化することで、学生の当事者意識、責任感の向上を図った。また、毎年新しい学生が参加することで、過年度積み重ねてきた経験がまた一から組み立て直すという状況があったため、参加学生の中で1名は昨年度経験者を選出するようにしたところ、昨年度参加した学生が様々な場面でまわりの学生を助けるという良い循環が生まれた。また、参加する教職員も、主担当、副担当、参画、参加という立場を越えてお互いに協力し合う雰囲気が形成され、例年以上に会議等への参加率が高まり、学生と教職員が一体となった活動を行えている。

②学生支援事業の目的達成度について

参加学生の振り返りアンケートの満足度を年度ごとに比較をすると、2010年度は69.6%、2011年度は73.6%、2012年度は81.7%、2013年度は97.0%が研修の参加に満足と回答している。また、2013年度は滋賀県への関心度を問う項目を新たに設定したが、参加学生の94.0%が滋賀県への関心が高まったと回答している。また、参加者アンケートの自由記述の中に、「滋賀県が地元ということで元々関心はあったが、自分が普段行かないような場所や、通り過ぎてしまうだけの場所に立ち寄ることで新しい興味が生まれた」、「ごみ拾いなどボランティア活動を通じて、自ら環境問題について考えた」、「様々な体験を通して他大学の生徒と仲良くなることができた」というような意見が多く書かれていた。

満足度が年々向上している点やアンケートの自由記述の記載内容から、本事業の内容が毎年昨年度の総括を踏まえ、改善していくことで質が高まっていることの表れといえる。また、2014年度はこれまでの経験を活かし、課題解決型のプロジェクトを2つ発足し、各大学の職員が支援のもと、活動を進めている。参加学生どうしの交流や成長だけでなく、滋賀県または地域への貢献度を高めることを目指した今年度の取り組みは、事業内容の高度化の節目となる年と位置づけることができる。実際に、沖島活性化プロジェクトでは、滋賀県知事と島民、学生との懇談会、滋賀県ブランド力向上プロジェクトでは滋賀県庁職員と学生による座談会を実施するなど、例年以上に滋賀県との連携を深めることができたといえる。その意味で、本事業の目的達成だけでなく、コンソーシアム第2ステージ宣言の中で述べられている「大学と地域の連携によって、大学と住民がともに地域の課題に向き合い、互いに学びあいながら問題解決を図る」という目標の達成の一助を担う活動を行うことができたと考える。

(2) 今後の課題

①各大学での参加学生の選出方法の見直し

毎年特定の学生団体から選出をお願いしている大学が多いが、学内公募の実施等、幅広い学生層に対して参加の機会を提供することが理想的である。ただし、募集を行う場合は選考方針の検討が必要になり、各大学の職員への負担増加が懸念される。そのため、慎重な議論が必要である。

②地域や行政との連携強化

学生支援事業の活動内容を議論する際、地域や行政が抱える問題を共有し、課題解決に向けた取り組みを地域や行政と連携しながら活動していくことで、従来の目的達成に加えて、滋賀県の活性化や学生の成長への貢献度が増すと考えられる。学生の本分は正課であることを念頭に置き、参加学生への負担が過度にならないよう、また参加学生が意義を感じられる内容であることを考慮しながら、地域や行政との連携を強化できる体制を検討していく必要がある。

③実施企画の見直し

2014年度は新規企画として滋賀県ブランド力向上プロジェクトを立ち上げた。学生の視点を活かした冊子作成の取り組みとそのための各種勉強会、取材先との調整を通じた学びと成長等、一定の効果はあったが、スケジュールの修正や担当職員の業務量の増加、大学の垣根をこえた交流の難しさ等、改善すべき課題も挙げられる。今年度新たに追加した「琵琶湖だけではない滋賀の奥深い魅力を 発信する。」という目的を一つの企画で実現できるよう、進め方を見直しを行う必要がある。

④学生支援事業のあり方を見直し

この間の取り組みは地域貢献活動が中心となっているため、地域連携事業との統合といった選択肢を踏まえ、より組織として発展していくことができる体制を検討していくべきだと考える。

以上

平成26年度 高大連携事業報告

平成27年3月31日

1. 担当

主担当 滋賀医科大学

副担当 立命館大学

参画大学 聖泉大学、びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀文教短期大学

2. 事業実施状況

滋賀県総合教育センターで実施する滋賀県公立学校教員10年経験者研修の講座に講師派遣と会場提供を行った。2014年度は、以下の3講座を実施した。

①立命館大学

日時：2014年8月6日（水）9:30～12:40 定員：20名 受講者：5名

会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス内所定の教室等

テーマ：生物多様性の保全 ～幹細胞生物学を利用した琵琶湖固有種の保存研究～

講師：立命館大学 薬学部 教授 高田達之氏

②滋賀医科大学

日時：2014年8月7日（木）13:30～16:30 定員：50名 受講者：14名

会場：滋賀医科大学 臨床講義室2

テーマ：いじめに関わる心の障害

講師：滋賀医科大学 地域精神医療学講座 特任助教 稲垣貴彦氏

③聖泉大学

日時：2014年8月19日（火）9:30～12:30

会場：聖泉大学 455教室 定員：50名 受講者：10名

テーマ：これからのキャリア教育の在り方について

講師：聖泉大学 人間学部人間心理学科キャリア創造専攻 准教授 富川 拓氏

〃

特命講師 近藤紀章氏

3. 事業委員会の開催

日時 2014年12月18日（メールによる開催）

議題 今年度の活動状況及び今後の活動について

議事概要

- ・本コンソーシアム検討WGでの検討状況を報告し、第3ステージに向けて今後の事業委員会活動について検討。
- ・その結果、本事業委員会については、
 1. 第2ステージの当初に企画提案があった共同のオープンキャンパスについては、所期の成果が得られなかったこと。
 2. 構成大学の多くは、滋賀県教育委員会と個別に連携協定を締結し、夏季連続講座を開催していること。
 3. 各大学・短期大学は独自に高大連携事業を実施されていること。

以上のことをふまえ、一旦、委員会活動を休止すること。また、次期ステージに向けて、本事業委員会の在り方について、抜本的に見直すことについて了承された。

以上

平成26年度就職支援事業報告

平成27年3月31日

平成26(2014)年度の就職支援事業は、学生の就職支援に直結する合同企業説明会を中心に、昨年度まで実施してきた事業内容を踏襲し、行政機関、経済団体と連携して学生のマッチングに繋がる内容として実施した。そして、今年度も、より一層、行政機関、経済団体との連携に努め、加盟大学の学生や県内企業にとって、より有効的な事業となるように取り組みを行った。

記

1. 担当

主担当	龍谷大学
副担当	滋賀県立大学
参画	聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ学院大学、滋賀短期大学

2. 平成26(2014)年度就職支援事業

1) 合同企業説明会

滋賀県内の優良企業・事業所を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングを実現するために「合同企業説明会」を実施する。実施にあたっては、学生にとって効果的なものを目指し、2013年度同様、滋賀県(労働局)、大津市、長浜市、甲賀市、各経済団体等と連携をとりながら、県・市・経済団体等が開催する「合同企業説明会」に共催・協力の形で取り組みを行った。

① 湖北会場(長浜市)

- ・担当校：長浜バイオ大学
- ・開催日：平成26(2014)年11月7日(金)
セミナー：11:00～11:45、説明会：13:00～16:30
- ・開催場所：長浜バイオ大学体育館
- ・主催：長浜市、米原市(湖北就活ナビ実行委員会)
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：50社
- ・参加学生数：130名(新卒者90名、既卒者40名)

② 湖東会場(近江八幡市)

- ・担当校：滋賀県立大学
- ・開催日：平成26(2014)年8月8日(金) 10:30～16:00
セミナー10:30～12:00、面接会：13:15～16:00
- ・開催場所：ホテルニューオウミ
- ・主催：ハローワーク東近江、近江八幡商工会議所、八日市商工会議所、東近江商工会、東近江地域雇用対策協議会
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：34社
- ・参加学生数：84名(内訳：新卒67名、既卒17名)

- ③ 湖東会場（甲賀市）
- ・担当校：聖泉大学
 - ・開催日：平成 26（2014）年 8 月 6 日（水）12:30～15:30
セミナー：11:00～12:00、面接会：13:00～15:30
 - ・開催場所：碧水ホール
 - ・主催：甲賀市
 - ・共催：ハローワーク甲賀
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
 - ・参加企業数：31 社
 - ・参加学生数：110 名（内訳：学生（既卒含む）88 名、一般 22 名）
- ④ 湖南会場（草津市）
- ・担当校：龍谷大学
 - ・開催日：平成 26（2014）年 6 月 11 日（水）13:30～16:00
 - ・開催場所：クサツエストピアホテル
 - ・主催：滋賀労働局、おうみ若者未来サポートセンター（ヤングジョブセンター滋賀）、ハローワーク、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
 - ・参加企業数：82 社
 - ・参加学生数：326 名（新卒 269 名、既卒 56 名、若年者 1 名）
※環びわ加盟大学生数：68 名（9 大学）
- ⑤ 湖南会場（大津市）
- ・担当校：滋賀短期大学、龍谷大学
 - ・開催日：平成 26（2014）年 9 月 1 日（月）
 - ・開催場所：びわ湖ホテル
 - ・主催：大津市
 - ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク大津、滋賀県中小企業団体中央会
 - ・協力：大津市商工会議所、大津北商工会、瀬田商工会、ヤングジョブセンター滋賀、滋賀新卒応援ハローワーク
 - ・参加企業数：51 社
 - ・参加学生数：167 名
- ⑥ 湖南会場（大津市）
- ・担当校：龍谷大学
 - ・開催日：平成 26（2014）年 10 月 20 日（月）13:30～16:00
 - ・開催場所：大津プリンスホテル
 - ・主催：滋賀労働局、おうみ若者未来サポートセンター（ヤングジョブセンター滋賀）、ハローワーク、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
 - ・参加企業数：120 社
 - ・参加学生数：284 名（大学院 7 名、大学 146 名、短大 42 名、専修 19 名、高専 0 名、能開 3 名／男子 165 名、女子 119 名）

- ⑦ 湖南会場（草津市）
- ・担当校：龍谷大学
 - ・開催日：平成 27（2015）年 1 月 29 日（月）13:30～16:00
 - ・開催場所：ボストンプラザ草津
 - ・主催：滋賀県、ヤングジョブセンター滋賀
 - ・共催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀新卒応援ハローワーク
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県地域若者サポートステーション、滋賀の三方よし人づくりセンター
 - ・参加企業数：25 社
 - ・参加学生数：80 名
- ⑧ 湖南会場（草津市）
- ・担当校：龍谷大学
 - ・開催日：平成 27（2015）年 2 月 18 日（水）13:00～16:00
 - ・開催場所：クサツエストピアホテル
 - ・主催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀県、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、おうみ若者未来サポートセンター
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
 - ・参加企業数：82 社
 - ・参加学生数：245 名（新卒：120 名、既卒：60 名、若年者：65 名）
- ⑨ 湖東会場（東近江市）
- ・担当校：びわこ学院大学
 - ・開催日：平成 27（2015）年 2 月 26 日（木）13:15～16:00
 - ・開催場所：八日市商工会議所 4 階大ホール
 - ・主催：東近江市就労対策協議会（東近江市商工会、八日市商工会議所、東近江市工業会、びわこ学院大学、東近江公共職業安定所、東近江地域雇用対策協議会、滋賀県中小企業団体中央会）
- ※事務局へ協力依頼があり、学生周知等にて協力を行っている。
- ・参加企業数：27 社
 - ・参加学生数：70 名（新卒：15 名、一般：44 名、既卒：11 名）
- ⑩ 湖西会場（高島市）
- ・担当校：龍谷大学
 - ・開催日：平成 27（2015）年 3 月 1 日（日）12:00～16:00
 - ・開催場所：高島市観光物産プラザ
 - ・主催：高島市
 - ・後援：滋賀県中小企業団体中央会
 - ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、大学コンソーシアム京都、高島経済会、高島市商工会、ハローワーク高島
 - ・参加企業数：30 社
 - ・参加学生数：85 名
- ※平成 28 年度以降卒業予定者対象（現 3 年生）の就職支援事業。

⑪ 留学生対象（草津市）

- ・担当校：龍谷大学
- ・開催時期：平成 26（2014）年 11 月 26 日（水）13:30～
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀経済産業協会
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：10 社
- ・参加人数：26 名

2) 滋賀県企業人事担当者と大学就職・進路担当者との情報交換会

年々変化している昨今の就職環境を踏まえ、滋賀県内の経済 2 団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）と連携し、企業の人事担当者と大学の就職・進路担当者が交流・意見交換を行ったことで、現状を捕まえた学生の就職支援に繋がった。本事業を実施することにより、経済団体及び企業と大学との距離が縮まり、よりよい関係構築が図れた。

◎担当校：（主担当校）龍谷大学、（副担当校）滋賀県立大学

① 滋賀経済産業協会（第 1 回目：理工系 4 大学（滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学、長浜バイオ大学））

- ・開催時期：平成 26（2014）年 7 月 28 日（月）15:00～19:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加企業数：30 社
- ・参加大学数：4 大学（9 名）

※滋賀県内理工系 4 大学と加盟企業人事担当者との交流会を実施。

② 滋賀経済産業協会

- ・開催時期：平成 27（2015）年 2 月 24 日（火）15:00～17:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加企業数：18 社（20 名）
- ・参加大学数：10 大学（13 名）

③ 滋賀県中小企業団体中央会

- ・開催時期：平成 27（2015）年 2 月 16 日（月）14:00～17:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加企業数：24 社（29 名）
- ・参加大学数：11 大学（15 名）

3) 大学就職・進路担当者間の情報交換会・研修会

近年、多様化する就職活動において、学生への就職支援を行っていく上で、担当者の研鑽は必要不可欠となっている。また、学生及び企業のニーズが多様化する中、大学間における情報交換は大学にとって貴重な支援策のひとつとなっている。このことから、本事業では加盟大学の就職・進路担当者が一堂に集まり、外部から講師を招き、話題提供に基づいた意見交換と、各大学における先駆的な支援施策等の情報交換を兼ねた研修会を開催した。

◎担当校：（主担当校）びわこ学院大学、（副担当校）滋賀短期大学

- ・開催時期：平成 26（2014）年 9 月 8 日（月）13:30～17:00

- ・開催場所：大学サテライト・プラザ彦根（アル・プラザ彦根平和堂 6 階）
- ・内 容：第 1 部：研修会 13:30～15:00
 - 講演：「就職支援と採用支援の間に見えること」
 - 講師：(株)コミュニケーション 濱中 倫秀 氏
- 第 2 部： 情報交換会 15:15～17:00

4) 学生（保護者含む）を対象とした就職活動に活かす企業訪問会

2013 年度より滋賀県中小企業団体中央会と協力を得て、滋賀県内優良企業（「B to B 企業」「B to C 企業」）の企業訪問会を実施している。2013 年度は、企業訪問会を通じて、学生はインターネット等では知り得ない生きた情報の収集につながり、且つその後の就職活動（業界研究、職業研究）に活かすことができた。

2014 年度も 2013 年度の事業を継承し、滋賀県中小企業団体中央会等の協力を仰ぎ、企業訪問会を実施した。この事業を通じて、学生がより多くの地元優良企業を知ることにより、企業選択の幅を広げるとともに、更に企業訪問後、OBOGとの交流を通じて「就職することとは」「働くこととは」どういうことかを考える機会となった。

◎担当校：（主担当校）長浜バイオ大学、（副担当校）聖泉大学

① 企業見学会（第 1 回）《理系 3 年生以上対象》

- ・開催時期：平成 26（2014）年 9 月 17 日（水）9:00～16:00
- ・訪問企業：呉羽テック(株)、山科精器(株)
- ・集合場所：J R 草津駅西口（9:00）
- ・定 員：20 名（先着順）
- ・参加学生数：16 名（4 大学：滋賀県立大学 11 名、立命館大学 2 名、龍谷大学 2 名、長浜バイオ大学 1 名）

② 企業見学会（第 2 回）《文・理系 3 年生以上対象》

- ・開催時期：平成 26（2014）年 9 月 18 日（木）
- ・訪問企業：(株)ナイキ、(株)日吉
- ・集合場所：J R 能登川駅西口（8:45）
- ・定 員：40 名（先着順）
- ・参加学生数：35 名（6 大学：滋賀大学 5 名、滋賀県立大学 11 名、びわこ学院大学 1 名、龍谷大学 5 名、聖泉大学 12 名、長浜バイオ大学 1 名）
- ・主催：滋賀県中小企業団体中央会

③ 企業見学会（第 3 回）《文・理系 3 年生以上対象》

- ・開催時期：平成 26（2014）年 9 月 25 日（木）
- ・訪問企業：(株)平和堂、(株)住文
- ・集合場所：J R 彦根駅東口（9:00）
- ・定 員：50 名（先着順）
- ・参加学生数：21 名（7 大学：滋賀大学 5 名、滋賀県立大学 2 名、立命館大学 1 名、びわこ学院大学 1 名、龍谷大学 1 名、聖泉大学 11 名、長浜バイオ大学 1 名）
- ・主催：滋賀県中小企業団体中央会

④ 企業見学会（第 4 回）《大学生、短大生、専門学校生及び卒業後概ね 3 年以内の方》

- ・開催時期：平成 26（2014）年 11 月 19 日（水）
- ・訪問企業：(株)滋賀銀行、滋賀特機(株)

- ・ 集合場所：大津市役所（9:15）
- ・ 定 員：20名（先着順）
- ・ 参加学生数：20名
- ・ 主催：大津市
- ⑤ ミニインターンシップ&就活マナー研修
 - ・ 開催時期：平成26（2014）年9月10日（水）10:00～16:00
 - ・ 開催場所：ポストンプラザ草津
 - ・ 参加企業：5社（（株）たねや、（株）日吉、（株）平和堂、滋賀特機、新江州（株））
 - ・ 定 員：60名（先着順）
 - ・ 参加学生数：45名（7大学：滋賀大学1名、滋賀県立大学10名、滋賀短期大学9名、成安造形大学2名、聖泉大学9名、長浜バイオ大学6名、龍谷大学5名）
 - ・ 主催：滋賀県中小企業団体中央会
- ⑥ 保護者向け就活サポート
 - ・ 開催時期：平成26（2014）年11月8日（土）10:00～12:00
 - ・ 開催場所：琵琶湖ホテル
 - ・ 対象者：大学、短大、専門学校に在学する保護者及び卒業後概ね3年以内の方の保護者
 - ・ 内 容：第1部
 - ・ 講演内容：現在の雇用情勢、就職活動の状況、中堅・中小企業で働くことのメリット、就職活動中の子どもへの関わり方
 - ・ 講師：常見陽平氏（人材コンサルタント）
 - 第2部
 - ・ 講演内容：大津市内の中堅・中小企業からの説明
 - ・ 講師：（株）ピアライフ 代表取締役 永井茂一氏
 - ・ 定 員：なし
 - ・ 参加保護者数：27名
 - ・ 主催：大津市
 - ・ 共催：滋賀県中小企業団体中央会
 - ・ 協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム

5) 滋賀県と共催事業による「仕事も生活も充実！未来のわたし体験発信事業」の実施

2013年度、滋賀県男女共同参画課と初めての共催事業としてワーク・ライフ・バランスを考えた働き方についての講演会を開催した。

2014年度も昨年度に続き滋賀県男女共同参画課との共催事業として、社会人の一歩手前である大学生を対象に「未来のわたし体験発信事業」を開催した。本事業は、固定的性別役割分担意識にとらわれず、多様な選択肢の中から自分自身の将来のキャリアビジョンを描けるよう、ワークショップ形式で学生自らが「キャリアビジョンを描くこと」について様々な体験を行い、その体験を通して気づいた内容や成果等について共有できるよう報告会を開催した。

◎担当校：（主担当校）龍谷大学

- ・ 募集期間：平成26（2014）年7月1日（火）～7月22日（火）
- ・ 募集人数：12名（※活動日程に全て参加できる人）
- ・ 活動内容・活動日・活動場所（会場）

①キックオフ：8月8日（金）

- ・ 会場：フェリエ南草津市民交流プラザ
- ・ プログラムの趣旨説明、プロジェクト参加にあたってのところがまえ多様な生き方や働き方、データから見る社会の変化に関する講義インタビュー講座 など

②ワークショップ①

- ・開催期間：8月26日（火）～28日（木）3日間
- ・会場：フェリエ南草津市民交流プラザ
- ・各メンバーによるインタビュー結果を共有希望する働き方で分類した架空の人物像を想定し、未来のシナリオを検討

ワークショップ②

- ・開催期間：9月17日（水）～18日（木）2日間
- ・会場：フェリエ南草津市民交流プラザ
- ・ワークショップ①を踏まえて「人生シミュレーションツール」の内容検討

③成果報告会

- ・開催日：12月7日（日）
- ・会場：立命館大学びわこ・クサツキャンパス「コアステーション会議室」
- ・参加メンバーによるプロジェクトの成果発表「人生シミュレーションツール」を使ったワークショップ など
- ・活動時間：10:00～16:00
- ・主催：滋賀県
（男女共同参画課 平成26年度仕事も生活も充実！未来のわたしの体験発信事業）
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・後援：仕事と生活の調和推進会議しが
- ・運営：NPO法人ハナラボ（滋賀県から企画運営業務を委託）
- ・参加学生数：11名（滋賀大学1名、滋賀県立大学1名、龍谷大学4名、同志社大学1名、京都女子大学2名、大谷大学1名、同志社大学大学院生1名）

6) 企業採用経験者による模擬面接会

企業の厳選採用が続く中、昨年度に引き続き、新卒者対象者への就職支援策として滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会（主催）に協力いただき、加盟大学を対象に企業採用経験者による模擬面接会を開催した。

- ・担当校：（主担当校）龍谷大学
- ・主催：滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会
- ・開催時期：平成26（2014）年5月21日・6月20日
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアムの加盟大学内
- ・実施校：4大学（実施人数59名、男子28名、女子31名）

※全て個人面接を実施

（内訳：びわこ学院大学（5月21日実施）：47名、聖泉大学（5月21日実施）3名、龍谷大学（6月20日実施）4名、滋賀県立大学（6月20日実施）5名）

以上

2014年度単位互換事業報告

平成27年3月31日

1. 担当

主担当校 滋賀大学
副担当校 龍谷大学

2. 取り組みの経過について

2013年11月21日に環びわ事務局会議室に於いて単位互換事業委員会及び教務担当者会議合同会議（以下「合同会議」という。）を開催し、2014年度の単位互換事業の進め方（「ガイドライン」）について協議・決定し、2014年度の事業を開始した。

2014年1月から、各大学からの提供科目の集約、シラバス原稿の集約を行い、4月1日に環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について（2014年度）をHPに掲載した。また、募集チラシ、ポスターを作成し、各大学に配布した。4月上旬から、各大学で募集ガイダンスと出願受付を行い、4月末に科目提供大学で受講者を決定し、各大学で単位互換科目の授業が行われた。

6月16日に同事務局会議室に於いて合同会議を開催し、2014年度の単位互換事業の状況報告を行った。また、成安造形大学から学生への案内用に作成しているチラシ及びポスターの見直し検討に加え、後期から各大学の学生への調査を含めたコミュニティデザインとして多角的な取り組みを行うことが提案された。

11月13日に同事務局会議室に於いて合同会議を開催し、6月16日に確認した方針を踏まえ、2015年度の開講に向けて12大学がそれぞれ集中講義科目の提供の可能性や提供科目数の確保等を検討した上で、2015年1月28日期限の提供科目の報告・集約を行うことが確認された。また、チラシ及びポスターの見直し検討について、その後の進捗状況を共有し、2015年度版の作成に向けてのスケジュール等を確認した。さらに成安造形大学からチラシやホームページの見直しについての進捗状況の報告、進級制作展・卒業制作展（2015年1月28日（水）～2月1日（日））に向けた2014年度の活動内容をまとめた提案プレゼンテーションがあった。

3. 単位互換事業の内容について

(1) 提供科目

2014年度の提供科目数は65科目（同一科目を複数の曜日時限に開講する場合に、それぞれを1科目として数えたもの）で、2013年度と比べて3科目増加した。

集中講義は7科目で前年度より1科目増加し、滋賀らしい科目は13科目で前年度から1科目減少した。

なお、実質的な科目数（学生が選択できる科目数）は、2014年度は64科目、2013年度は59科目であり、5科目増加である。（提供科目一覧 別紙(1)参照）

(2) 受講科目及び受講者数

提供科目のうち、他大学生が出願し受講が許可された科目数は31科目であり、昨年

より3科目減少した。受講率(=受講科目数÷提供科目数)は48%で、昨年度(55%)からは少し減少となった。また、受講者が0名の大学が4校で昨年度(2校)より2校増加した。

2014年度の受講者数は4月24日現在で114件(実数78名)であり、昨年度からは22件(実数では17名減少)減少した。また、本年の出願数は115件であり、出願ベースでも昨年度に比べ45件減少している。なお、選考の結果定員超過等の理由により1件が受入不可となった。さらに、本年度も集中講義の人気は高く、集中講義7科目で46件の受講者数となり、特に「琵琶湖の民俗史」(後期集中)は15名の受講者を集めた。

なお、5月27日～6月10日まで追加募集を行ったが、出願者はなしであった。4月に許可した受講者において、6月24日付で日程重複のあった授業科目の許可を取り消し、その代わりに修正措置として別途の授業科目の申請を認め許可を行った。

また、8月26日～9月6日まで再追加募集を行った結果、1件(実数1名)の出願があった。なお、4月に許可済の「滋賀の自然史」(履修許可者1名)について、やむを得ない理由により不開講となったため、許可を取り消した。その結果、受講者数は114件となった。

(提供科目数・受講科目数の推移、受講科目一覧、受講者数 別紙(2)(3)及び(4)参照)

(3) 大学別の送出件数・受入件数

大学別に「送出件数」「受入件数」を見ると、大学によっては「送出超過」「受入超過」の傾向が顕著になりつつある。各大学で送出と受入が均衡しながら全体として増加する状態が望ましいが、「送出のみ」「受入のみ」となりつつある大学もある。短期大学は、2年間で卒業する履修カリキュラムの制約から、出願が0件もしくは数件の状況が続いている。

2007年度は11大学からの送出しがあり、2008年度は9大学、2009年度は8大学と一時低迷したが、2010年度は10大学と若干回復したが、2011年度及び2012年度は7大学、2013年度は6大学、2014年度は7大学と再び低下している。

(4) 成績取得状況

2014年度の成績取得状況は、受講者数114件のうち合格が68件(60%)という状況で、昨年度の受講者数は147件のうち合格が99件(67%)で合格者の比率が若干低くなった。また、本年度は不合格者46件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるもの(成績評価が「0」または「評価なし」)が39件であり、昨年度の不合格者48件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるものが32件と比べて状況は悪化している。事務を担う科目提供大学の負担となるため、受講放棄・試験未受験をさせないように継続して働きかけが必要である。

なお、学期ごとの成績取得状況は、前期(春学期)科目63件のうち、合格が40件(64%)で、後期(秋学期)科目51件のうち、合格が28件(55%)である。

別紙

(1) 提供科目一覧

科目提供大学	科目番号	科目名	回生	単位互換定員	開講期間	曜日	時限	単位
滋賀大学	01	芸術と文化	1以上	10名程度	春学期集中			2
	02	言語と文化	1以上	10名程度	春学期集中			2
	03	教育と文化	1以上	10名程度	秋学期	火	4	2
	04	経営学からの問い	1以上	10名程度	春学期	月	2	2
	05	数学的思考	1以上	10名程度	秋学期	水	3	2
	06	情報通信の仕組み	1以上	10名程度	春学期	火	5	2
	07	近江とびわ湖Ⅱ	1以上	10名程度	秋学期	火	2	2
	08	近江とびわ湖Ⅰ	1以上	10名程度	春学期	金	4	2
	09	近江のくらしと文化	1以上	10名程度	秋学期	金	4	2
	10	滋賀大学で環境を学ぶ	1以上	10名程度	春学期	木	4	2
	11	彦根・湖東学	1以上	10名程度	秋学期集中			2
滋賀医科大学	12	医学概論Ⅰ	1回生以上	15名	前期	木	2	2
	13	医学概論Ⅱ	1回生以上	15名	後期	木	2	2
	14	臨床心理学	1回生以上	不問	前期	火	4	2
	15	臨床コミュニケーション学	1回生以上	30名	前期	金	3	2
	16	地域論	1回生以上	不問	後期	木	4	2
	17	睡眠学概論	1回生以上	10名	前期	金	1	2
滋賀県立大学	18	環境マネジメント総論(人間文化学部・人間看護学部)	指定なし	10	前期	月	1	2
	19	環境マネジメント総論(環境科学部・工学部)	指定なし	10	前期	月	2	2
	20	びわこ環境行政論	指定なし	10	後期	月	4	2
	21	滋賀の自然史	指定なし	10	後期	月	5	2
滋賀短期大学	22	環境を考える	1以上	若干名	前期	木	1	2
	23	カラーコーディネート論	1以上	若干名	前期	月	1	2
	24	和服構成実習	1以上	若干名	前期	水	4	1
	25	生活工芸演習	1以上	若干名	後期	金	2	1
	26	子どもの精神保健	1以上	若干名	後期	金	2	2
	27	秘書学概論	1以上	若干名	前期	火	4	2
	28	秘書実務Ⅰ	1以上	若干名	前期	金	1	1
	29	秘書実務Ⅱ	1以上	若干名	後期	金	4	1
滋賀文教短期大学	30	書道Ⅰ	1以上	若干名	春学期	火	3	2
	31	書道Ⅱ	1以上	若干名	秋学期	火	3	2
成安造形大学	32	近江学B	1以上	10名程度	前期	木	1	2
	33	琵琶湖の民俗史	1以上	10名程度	後期集中			2
	34	西洋美術史A	1以上	10名程度	前期	火	1	2
	35	西洋美術史B	1以上	10名程度	後期	火	1	2
	36	デザイン史概説A	1以上	10名程度	前期	火	2	2
	37	デザイン史概説B	1以上	10名程度	後期	火	2	2
聖泉大学	38	滋賀論	1	若干名	前期集中		2	2
	39	心理学概論	1	若干名	前期	月	2	2
	40	現代人と健康	1	若干名	後期	水	2	2
長浜バイオ大学	41	エッセンシャル生物学Ⅰ	1以上	5名以内	前期	月	3	2
	42	生物学基礎	1以上	5名以内	前期	月	2	2
	43	歴史学	1以上	5名以内	前期	月	2	2
	44	遺伝子工学	2以上	5名以内	後期	金	2	2
びわこ学院大学	45	日本語表現Ⅰ	1以上	5名程度	前期	月	4	2
	46	日本語表現Ⅱ	1以上	5名程度	後期	月	3	2
	47	ビジネスコミュニケーション	1以上	5名程度	後期	木	2	2
	48	滋賀の環境	1以上	5名程度	後期	火	1	2
びわこ成蹊スポーツ大学	49	衛生・公衆衛生学	1	若干名	前期	火	2	2
	50	スポーツバイオメカニクス	1	若干名	後期	火	2	2
龍谷大学	51	生活の中の数学	指定なし	15名	前期	月	1	2
	52	教養教育科目特別講義A「里山学入門」	指定なし	10名	前期	月	3	2
	53	環境と人間A	2以上	20名	前期	月	4	2
	54	ジャーナリズム論Ⅰ	2以上	不問	前期	火	2	2
	55	社会保険論	3以上	5名	前期	火	4	2
	56	社会人類学	2以上	10名	後期	月	3	2
	57	まちおこし論	2以上	不問	後期	火	2	2
	58	びわ湖・滋賀学	2以上	不問	後期	木	1	2
立命館大学	59	ODA・国際援助論 E	3以上	10名程度	夏期集中			2
	60	経営と女性 B	2以上	10名程度	夏期集中			2
	61	キャリア開発 B	2以上	10名程度	前期	木	4	2
	62	科学と技術の歴史 TB	1以上	20名程度	前期	火	3	2
	63	情報技術と社会 TA	1以上	20名程度	前期	水	3	2
	64	科学・技術と社会 C	1以上	10名程度	後期	金	5	2
	65	生命科学と倫理 MA	1以上	10名程度	前期	月	5	2
	66	スポーツ栄養学 V	2以上	10名程度	前期	木	3	2

※科目番号 21 の「滋賀の自然史」は、2014年10月時点で不開講となったもの

(2) 提供科目数・受講科目数の推移 <自大学への出願を除く>

科目提供大学		滋賀	大滋賀	滋賀	滋賀	短滋賀	大成	聖	大長	大び	スび	龍	大立	全
		大	医	県	短	期	安	泉	浜	び	び	谷	命	大
		学	学	立	期	大	造	大	才	わ	わ	大	館	学
		学	科	大	大	学	形	学	学	こ	こ	学	学	計
2008年度	提供科目数	3	5	3	9	4	7	3	3	2	7	8	12	66
	受講科目数	2	5	1	7	2	4	2	0	2	0	8	5	38
	受講率	67%	100%	33%	78%	50%	57%	67%	0%	100%	0%	100%	42%	58%
2009年度	提供科目数	5	6	3	18	6	8	4	4	3	2	9	9	77
	受講科目数	4	4	1	7	3	1	1	0	2	0	6	4	33
	受講率	80%	67%	33%	39%	50%	13%	25%	0%	67%	0%	67%	44%	43%
2010年度	提供科目数	5	6	2	9	3	4	5	4	3	4	8	11	64
	受講科目数	4	4	0	4	2	2	2	0	1	1	6	4	30
	受講率	80%	67%	0%	44%	67%	50%	40%	0%	33%	25%	75%	36%	47%
2011年度	提供科目数	8	6	2	11	3	4	2	4	7	1	8	12	68
	受講科目数	7	3	2	3	1	0	1	0	4	0	6	5	32
	受講率	88%	50%	100%	27%	33%	0%	50%	0%	57%	0%	75%	42%	47%
2012年度	提供科目数	7	6	2	10	3	4	1	4	7	3	8	9	64
	受講科目数	4	4	2	1	2	1	1	1	5	0	6	2	29
	受講率	57%	67%	100%	10%	67%	25%	100%	25%	71%	0%	75%	22%	45%
2013年度	提供科目数	11	6	4	8	2	4	1	4	4	2	9	7	62
	受講科目数	7	5	2	4	2	2	1	0	1	0	8	2	34
	受講率	64%	83%	50%	50%	100%	50%	100%	0%	25%	0%	89%	29%	55%
2014年度	提供科目数	11	6	3	8	2	6	3	4	4	2	8	8	65
	受講科目数	8	3	2	3	0	3	2	0	0	0	7	3	31
	受講率	73%	50%	67%	38%	0%	50%	67%	0%	0%	0%	88%	38%	48%

(3) 受講科目一覧

2014年度受講科目一覧 (提供科目数：65科目 受講科目数：31科目)				
科目番号	科目提供大学名	科目名	受講者数	集中講義
01	滋賀大学	芸術と文化	4	○
05	滋賀大学	数学的思考	1	
06	滋賀大学	情報通信の仕組み	3	
07	滋賀大学	近江とびわ湖Ⅱ	1	
08	滋賀大学	近江とびわ湖Ⅰ	5	
09	滋賀大学	近江のくらしと文化	1	
10	滋賀大学	滋賀大学で環境を学ぶ	4	
11	滋賀大学	彦根・湖東学	10	○
13	滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	6	
14	滋賀医科大学	臨床心理学	1	
17	滋賀医科大学	睡眠学概論	8	
19	滋賀県立大学	環境マネジメント総論 (環境科学部・工学部)	1	
20	滋賀県立大学	びわこ環境行政論	1	
21	滋賀県立大学	滋賀の自然史	不開講	
23	滋賀短期大学	カラーコーディネート論	4	
27	滋賀短期大学	秘書学概論	1	
28	滋賀短期大学	秘書実務Ⅰ	1	
33	成安造形大学	琵琶湖の民俗史	15	○
34	成安造形大学	西洋美術史A	1	
36	成安造形大学	デザイン史概説A	1	
38	聖泉大学	滋賀論	11	○
40	聖泉大学	現代人と健康	1	
51	龍谷大学	生活の中の数学	1	
53	龍谷大学	環境と人間A	2	
54	龍谷大学	ジャーナリズム論Ⅰ	6	
55	龍谷大学	社会保険論	2	
56	龍谷大学	社会人類学	4	
57	龍谷大学	まちおこし論	6	
58	龍谷大学	びわ湖・滋賀学	5	
59	立命館大学	ODA・国際援助論(E)	1	○
60	立命館大学	経営と女性B	5	○
62	立命館大学	科学と技術と歴史(TB)	1	
総計			114	6科目

(4) 受講者数

2014年度	学生所属大学												
	滋賀大学	滋賀医科大学	滋賀県立大学	滋賀短期大学	滋賀文教短期大学	成安造形大学	聖泉大学	長浜バイオ大学	びわこ学院大学	びわこ成蹊スポーツ大学	龍谷大学	立命館大学	総計
科目提供大学	滋賀大学						5			1		23	29
	滋賀医科大学											15	15
	滋賀県立大学	1					1						2
	滋賀短期大学	3					1		1			1	6
	滋賀文教短期大学												0
	成安造形大学	1					2					14	17
	聖泉大学	2										10	12
	長浜バイオ大学												0
	びわこ学院大学												0
	びわこ成蹊スポーツ大学												0
	龍谷大学					1						25	26
	立命館大学	2	3				2						7
	総計	9	3	0	0	0	11	0	1	1	0	88	114

II 2015年度単位互換事業

環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案に基づき、2015年度の開講に向けて、引き続き参加学生の増加を図るための方策や滋賀らしい科目の提供を行う必要がある。

- (1) 受講者数の増加方策として、各大学が夏期集中や土曜開講科目の充実、サテライト教室（大津駅前など）での開講を計画する。また、事務局および各大学が、学生に積極的に広報を行う。
- (2) 滋賀らしい科目を提供するため、各大学が近江学やびわ湖学などの滋賀らしさのある科目を開発・提供する。
- (3) e-learningによる科目提供について、さらに検討を加える。

2015年度の開講・出願スケジュールは、別添のとおりである。

《 2015 年度開講・出願スケジュール 》

月日	教務日程	備考
1月28日(水)	【開講】2015年度提供科目報告期限	所定フォーマット
3月6日(金) 【厳守】	【開講】2015年度開講科目シラバス最終原稿締切	
3月中旬	【開講】2015年度「募集ガイド」HP掲載	
4月上旬	【出願受付】募集ガイダンス・出願受付	
～4月14日(火)	【出願受付】出願受付 <各大学> ※許可発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。	各大学の状況に応じて設定
4月16日(木) 17:00【厳守】	【出願受付】「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学>	所定フォーマット
4月17日(金) ～4月22日(水)	【出願受付】出願者の選考 <科目提供大学>	
4月24日(金) 17:00【厳守】	【出願受付】選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
4月27日(月) ～4月28日(火)	【出願受付】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【出願受付】受講登録	所属大学で随時
4月30日(木) ～5月12日(火)	【追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提供大学>	
5月13日(水) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学→事務局大学> ※夏期集中・後期科目を対象とする。	所定フォーマット
5月15日(金)	【追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学>	
5月25日(月) ～6月8日(月)	【追加募集】追加募集受付 <各大学>	各大学の状況に応じて設定
6月11日(木) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学>	
6月12日(金) ～19日(金)	【追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学>	所定フォーマット
～6月23日(火) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
6月24日(水) ～7月1日(水)	【追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【追加募集】追加募集許可者の受講登録	所属大学で随時
8月3日(月) ～8月11日(火)	【再追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提供大学>	

8月17日(月) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学 →事務局大学> ※後期科目を対象とする。	所定フォーマット
8月19日(水)	【再追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学>	
8月24日(月) ~9月4日(金)	【再追加募集】追加募集受付 <各大学>※許可 発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。	各大学の状況に応じて設定
9月8日(火) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各 大学→科目提供大学>	
9月9日(水) ~9月16日(水)	【再追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学 >	所定フォーマット
~9月18日(金) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供 大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
9月24日(木) ~9月28日(月)	【再追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【再追加募集】追加募集許可者の受講登録	所属大学で随時

平成26年度 広報事業報告

平成27年3月31日

1. 担当

事務局

2. ホームページの管理・運営について

(1) 情報提供

コンソーシアムのホームページを通して、各大学で開催されるオープンキャンパスや各種イベント等の情報提供を行った。また、年度内において各事業委員会の取組状況等を紹介する「お知らせ」記事を72件ホームページ上で掲載した。

(2) 情報内容更新

- ① 各事業委員会のページについて、平成26年度事業内容に更新した。
- ② 平成26年5月26日および平成27年3月26日開催の総会決議を受けて、組織図、役員一覧、役員会議事録、財務状況を更新した。
- ③ 大学紹介ページを一部更新した。

なお、年度内のアクセスは28,353件（昨年度は29,000件）であった。

3. 広報資料の配布

コンソーシアムを紹介する資料として、12月に役員紹介、設立以降の歩み等を追加した新たな広報リーフレット（A4×6P）を10,000部作成し、会員および関係機関に加えて全国大学コンソーシアム協議会に参加しているコンソーシアムに配布した。

また、新しいリーフレットが完成するまでの間、コンソーシアムの役員・幹事体制、会員一覧表、組織図、各事業委員会ごとの主な事業計画を抜粋した概要版も作成し、対外的な情報発信資料として配布した。

4. 事業委員会と連携した広報活動について

大学地域連携事業（大学地域課題解決支援事業、環びわ湖大学地域交流フェスタ）、学生支援事業（沖島活性化プロジェクト、滋賀県ブランド力向上プロジェクト）、高大連携事業（公立学校教員対象研修会）、就職支援事業（合同企業説明会、就活マナー研修等）、単位互換事業（互換科目の受講案内）について、各事業委員会と連携してホームページ掲載をはじめとした広報を行った。

（以上）

平成26年度 本法人全体に関わる事業報告

平成27年3月31日

1. 滋賀県からの受託事業

(1) 大学連携政策研究事業（「東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致可能性等調査事業」）

1. 事業概要

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、海外からの来訪客を温かく迎え入れ、おもてなしし、外国人観光客の誘客を促進する機会として、その開催効果を東京一極集中ではなく、広く全国各地に及ぼし、かつ将来に渡ってその恩恵を享受できるようにする必要がある。

このような状況を鑑み、全国各地のスポーツ施設などを活用した各国代表選手団の事前合宿受け入れや、各地域の特色を生かした文化プログラムの展開などが予定されており、滋賀県でもそれらの取り組みについて検討が進められている。

このため、事前合宿誘致の可能性と課題、経済波及効果、外国人から見た滋賀県の魅力などについて情報収集し、分析するとともに、滋賀県内の大学及び大学生の効果的なかかわりについて検討した。

2. 委託期間 2014年8月1日（金）から2015年3月31日まで

3. 受託調査内容

- (1) 事前合宿誘致可能性に関する調査
- (2) 外国人来訪者から見た滋賀県の魅力分析
- (3) 大学及び大学生が効果的にかかわるための具体的な取り組み提案

4. 実施体制

研究代表者：長積 仁（立命館大学スポーツ健康科学部教授）

共同研究者：吉田政幸（びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部准教授）

共同研究者：松永敬子（龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース教授）

共同研究者：井上雄平（ミネソタ大学身体運動学科スポーツマネジメント専攻助教）

共同執筆者：縄本敏（一般社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局長）

5. 調査成果

(1) 事前合宿誘致可能性に関する調査

オリンピックの事前合宿誘致の可能性に関する検討を、シドニー五輪における事前合宿地の事例、近年の五輪における事前合宿地の事例、国内における東京オリンピック・パラリンピックに

向けた誘致推進組織の設置状況、早々とスウェーデンと事前合宿に関する基本合意に成功した福岡市の事例、世界陸上やユニバーシアード競技大会の事前合宿を受け入れた佐賀県の実例、その他の大学でスポーツ選手団を受け入れた事例を分析し、課題を抽出した。これにより、スポーツ競技団体のニーズを分析し、滋賀県内の資源と受け入れ体制を調査し、配慮すべき事項を検討した。また、東京オリンピック開催の経済波及効果の推測、および沖縄県におけるプロスポーツチームのキャンプ誘致がもたらした経済効果を紹介した。

(2)外国人来訪者から見た滋賀県の魅力分析

滋賀県内の大学・短期大学で学ぶ留学生（有効回答 137 名）と各大学の外国人専任教員(30 名)の協力を得て、滋賀県のどの場所にどんな魅力を感じているかアンケート調査を行った。また、7 コースについて留学生を対象としたモニターツアー(平均参加人数 5 名)を実施し、感想を収集した。

(3)大学及び大学生が効果的にかかわるための具体的な取り組み提案

合宿誘致にかかわる大学・大学生及び地域との連携の可能性として、大学による学生スポーツボランティアの養成と、大学と連携して地域に残したいスポーツボランティア養成のしくみを提案した。また、スポーツイベント開催にともなうスポーツ振興と地域活性化を図る仕組みづくりとして、スポーツコミッションの可能性を検討し、海外の事例分析、国内の事例分析を行い、スポーツという優良コンテンツを滋賀のまちづくりに総合的に生かす「滋賀県スポーツコミッションの創設」に向けて提案を行った。

(2)県内大学を活用した観光交流モデル検討事業

1、事業概要

県内の大学と地域住民が連携しながら、地域に眠る様々な地域資源を発掘、創造し、それらを魅力ある観光資源として磨き上げ、地域への来訪を促す「観光交流」による地域振興のモデルを検討する。

2. 委託期間 2014 年 6 月 1 日（金）から 2015 年 3 月 31 日まで

3、受託業務内容

県内の各大学が有する知的資源や人的資源を集結し、地域社会や地域住民と連携しながら、学生の視点や価値観を活かした取り組みを行う。

(1)学生の視点による観光資源の発掘

学生がもつ「若い感性」や転入者としての「外からの視点」を活かして、これまでにない観点から、県内の地域資源の調査を行い、新たな観光資源の創造を行う。また、地域資源や観光資源の効果的な PR 手法を検討するとともに、学生自らも情報発信に努める。

(2)地域資源を生かした誘客の促進

大学の専門性や特色を活かして、地域社会や地域住民との連携を図りながら、地域資源の活用方法を検討し、誘客の促進につながる観光交流プロジェクトを展開する。

(3)観光交流モデルとしての検討

上記の取り組みを踏まえ、県内の他の地域や様々な分野に適用できる「観光交流モデル」として、その手法等を取りまとめる。また、地域社会と大学、学生等とのネットワーク化を進め、相互に情報交換や事業展開ができる土壌を形成する。

4、業務実施体制

統括者：縄本 敏（環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局長）

担当者：金井萬造（立命館大学経済学部教授）

担当者：加藤賢治（成安造形大学付属近江学研究所研究員）

担当者：豊田哲也（立命館大学学生部学生オフィス）

5、事業成果

(1)学生の視点による観光資源の発掘

学生がもつ「若い感性」や転入者としての「外からの視点」を活かして、これまでにない新しい観点から、滋賀の魅力を PR する冊子「あたしがーあたらしい滋賀／あたしたちの滋賀」の企画・編集・発行を行い、3,000 部を大学生などに配布した。

冊子の企画・編集にあたり、6 大学から 14 名の学生が参加し、県内の事業所や店舗、スポーツ施設、文化施設などを訪問し、地域の食材や飲物、スポーツや芸能などについて人々の意見を聞き取材を行った。成安造形大学が冊子の編集を行い、他の大学は取材を担当した。また、平成 26 年 11 月 18 日（火）には、滋賀県職員（企画調整課・広報課担当者）と学生 8 人で、滋賀の魅力について意見を交換する座談会を実施し、その結果を冊子に反映した。

(2)地域資源を生かした誘客の促進

甲賀市をモデル地域にし、大学連携を活かした観光交流モデルおよび実践展開に関する検討を立命館大学が中心となり滋賀県立大学が協力して行った。具体的には、甲賀市水口～土山を結ぶ広域観光ルート開発について、「今郷」を中間地点として 2 つのコースで開発することを提

案した。

また、水口の伝統的食材である「かんぴょう」を活かした「かんぴょうラスク」をつくり、85名に試食を提供し、レシピは地元団体「おむすびの会」に伝達した。この他、伝統工芸品の「水口細工」の知名度の向上、「忍者」をテーマにした観光商品づくり、MIHOミュージアムの広報力と信楽焼を組み合わせたインバウンド観光ルートについて提案した。

さらに、大津市堅田をモデル地域とし、歴史文化資源を生かした誘客の促進のため、観光・健康ウォーキングマップを、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学と大津北商工会が連携して制作した。制作したマップをもとに、平成27年3月15日（日）に両大学が引率して観光・健康ウォーキングを30名で実施した。ウォーキングマップは、堅田駅前観光案内所や主要店舗などで配布している。

(3)観光交流モデルとしての検討

(1)、(2)の取り組みをもとに、地域の魅力を増し観光交流を促進する着地型「観光交流モデル」の手法について取りまとめた。着地型の地域観光は、住民団体や観光事業者、自治体、観光団体などによる推進組織の編成と具体的な実践が基本である。それに対する大学の支援のあり方、具体的には、住民や自治体職員と学生などによる地域資源調査と取りまとめ、観光素材のマップ化、観光商品としての要件チェック、観光ルートマップの作成、来訪者に感動をよぶ取り組み（若者の視点を生かしたプロモーションなど）について検討した。

地域で着地型観光を振興するためのプロセスは複雑で専門的であり、国内でも成功している事例は少ない。県内でも本格的に取り組まれている事例はなく、県内大学には観光関係の学部学科・研究科がない状況である。このため、各大学が有する関連分野の知的資源や人的資源を結集し、産学官共同で観光地域づくりの推進組織を専門的に支援する仕組みの必要性について提案した。